

## ●定住促進●

離島暮らし体験ツアーなどで  
移住の促進を目指す

香川県政策部政策課地域づくり推進室

## ◆はじめに

香川県には離島振興法指定の離島が二九島あり、うち二三島が有人離島で全国的にも離島の数の多い県の一つである。本県も人口減少と高齢化の問題を抱えているが、離島においては、その傾向が特に顕著である。

そこで香川県では、離島への移住・交流の促進や島の活性化を図るため、離島活性化交付金を活用して、大都市圏での移住フェアや情報誌などを活用した島の情報発信に努めるとともに、島暮らしの体験ツアーを実施するなど、本県離島の魅力PRに努めている。

## ◆好評だった「かがわの離島暮らし体験ツアー」

本県の離島への移住に関心がある県外在住の方を対象として「かがわの離島暮らし体験ツアー」を実施した。これ

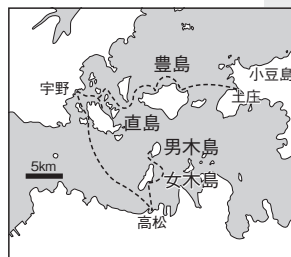


体験ツアーで空き家の活用事例を見学。

それぞれ四組六名、七組九名の方にご参加いただいた。ツアーは少人数として、移動は原則定期船。宿泊先は民

は、離島での生活や地域住民との交流を体験していただくことで、島への移住の促進を目的としたものである。

平成二五年度は、二泊三日の日程で二回開催。一回目は「豊島・直島コース」、二回目は「女木島・男木島・直島コース」で行い、関東や関西、中部などから、





住民との交流を楽しむ体験ツアー参加者たち。



体験ツアーのメニューの一つ、郷土料理づくり体験。



「四国暮らしフェア」での香川県離島情報コーナーの様子。

泊や民宿とした。就業・移住相談、空き家見学、島内案内をはじめ、民泊先での農業体験、先輩移住者である「かがわ暮らし応援隊」や地元住民との交流会などをプログラムに取り入れ、参加者が地域の方と触れ合いながら島の豊かな自然や文化、アートを知っていただくことができるよう工夫した。

その結果、参加者には移住先としての香川の離島暮らしの魅力をより実感していただけたのではないかと考える。実際、参加者には非常に好評で、「香川県の離島の印象が

上がった」「香川県を移住先として検討したい」「移住を考える上で参考になった」との意見を多くいただいた。

### ◆移住フェアなどを活用した情報発信

このほか、移住情報などの発信面では、東京にて四国四県共同で開催する移住フェア「四国暮らしフェア」や、全国の島々が集まる祭典「アイランダー」に離島の情報コーナーを出展し、本県の島や島暮らしの魅力発信に努めている。

香川県への移住を考える方のなかには、「瀬戸内での島

暮らし」に関心のある方も多く、島での住まいや就職、生活費など具体的な相談を多く受けた。また、移住専門誌などを活用した情報発信にも取り組んでいる。

### ◆住まいと職の確保が課題

前述の事業において、本県の離島への移住については前向きな反応が得られた。しかし、島暮らしに不可欠な「住

まい」や「職」の部分で選択肢が限られるなど、離島特有の問題があり、直ちに移住につながることは少ない。離島活性化交付金などを活用して、引き続き島の魅力をPRして交流の促進を図り、最終的に移住につなげていくためには、住まいと職の確保が今後の課題である。

## 「かがわの離島暮らし体験ツアー」開催離島の概要

### 女木島（高松市）

高松港からフェリーで20分、高松港の沖合い約4kmの瀬戸内海に浮かぶ小島。人口は約200人。桃太郎が鬼征伐に來たと伝えられ、通称「鬼ヶ島」と呼ばれている。島内には、桃太郎伝説の洞窟や「オオテ」と呼ばれる高い石垣などがあり、島独特の風情が漂っている。「瀬戸内国際芸術祭2010・2013」の会場にもなっており、高松から手軽に行けるアートの島としても注目を集めている。

### 男木島（高松市）

高松港からフェリーで40分、人口約200人の島。段々畑のように密集する民家の間を縫って連なる石段は、瀬戸の小島ならではの風情がある。島の最北端に立つ男木島灯台は、映画『喜びも悲しみも幾歳月』の舞台になったところである。女木島と同様、「瀬戸内国際芸術祭2010・2013」の会場にもなっている。芸術祭をきっかけにUターンされた家族などがあり、休校中であった小・中学校が今年再開し注目を集めている。

### 直島（香川郡直島町）

高松港からフェリーで約50分、人口約3,200人の島。世界的建築家・安藤忠雄氏設計の地中美術館やベネッセハウスミュージアムなどがあり、「現代アートの聖地」とも称され、世界中から多くの人が訪れている。本村地区に残る古民家などを改修し、アーティストが作品化している「家プロジェクト」も人気。昨年3月には、ANDO MUSEUMもオープンするなど、ますます魅力的に。島の魅力に惹かれて、移住する人も多い。

### 豊島（小豆郡土庄町）

高松港から高速艇で約30分、人口約1,000人の島。豊かな自然があり、瀬戸内海の大きささまざまな島々からなる素晴らしい眺望が島内のどこからでも楽しめ、新鮮な魚介類が獲れる。清らかで豊富な水が流れ、大小300のため池もあり、オリーブやイチゴなどの栽培も盛んである。瀬戸内国際芸術祭を契機に、豊島美術館などがオープンし、豊かな自然、食と現代アートの島として、人気を集めている。